

Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13

「東京大壁画」 ついに完成

総面積 7,752 m²、横尾忠則さん・横尾美美さんの競作による
世界最大級の壁画アート 完成披露発表会を実施

東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が主催する“Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13”のひとつであり、株式会社ドリルが企画制作を手がける「東京大壁画」では、本日7月17日（土）より東京・丸の内のランドマークである丸の内ビルディング（以下、丸ビル）・新丸の内ビルディング（以下、新丸ビル）の壁面に総面積7,752m²の巨大壁画アート2作品の展示を開始します。

「東京大壁画」は、“Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13”のシークレット企画として最後に発表されたプログラムであり、横尾忠則さんと横尾美美さんを起用し、東京の中心地であり、アートの街としても知られる丸の内に世界最大級の壁画アート作品を展示するものです。1964年東京オリンピックのデザインチームとしても活躍し、長きにわたって日本の美術界を牽引してきた横尾忠則さんと、ご息女であり画家として活躍中の横尾美美さんによる初の親子大規模競作となります。企画コンセプトは「宇宙 COSMO POWER」。丸ビルの壁面（総面積3,371m²）には“火（ignis）”をテーマとした横尾美美さんの作品が、新丸ビルの壁面（総面積4,381m²）には“水（aqua）”をテーマとした横尾忠則さんの作品を展示します。

展示初日となる7月17日（土）には東京駅丸の内駅前広場にて、完成披露発表会を実施。2ヶ月以上の施工期間を経て完成した2つの作品を前に、横尾忠則さん、横尾美美さんの両名によって作品にサインを添えるセレモニーが開催されました。





完成披露発表会においては、アーティストの2人より、作品の完成に寄せたコメントが発表されました。

横尾忠則さんから

「僕の作品は世界中から1万6,000枚以上集めた滝のポストカードをもとに制作したもので、1枚のポストカードをかなりの大きさに拡大して展示しています。都市化が進み、風景が人工的になっていく中で、こういう形で自然を展示することで、改めて自然というものを認識してもらえれば。本日は晴天で光が強いが、作品は時間帯を変えることで様々な表情を楽しんでいただけたらと思うので、ぜひ足を運んでいただければと思う。今回の制作は親子の競作になった。普段、親子同士で会話を交わすというのはあまりないのだが、こういう場所で作品を通して会話をできたというのも僕にとっては新しい経験だった。」

横尾美美さん

「親子での競作といいながら、実は一度も一緒に話し合いをしたりせず、お互いに水と火をテーマに作品を作り上げた。完成とともに親子でここに並び、作品をお披露目するというのが不思議な感覚。東京駅から皇居につながるこの場所は非常に特別な場所で、ここに作品を展示できたということの意味深く感じる。制作をスタートしたのはコロナ禍の世界を予想もしていない段階だったが、完成した今は、両方の作品にその時と別の意味合いが出てきたと思う。私自身は炎をイメージした作品を担当した。当初炎のイメージは“パワフルさ”や“熱狂”だったが、今はその力が様々な困難に対する“浄化”や“癒し”の力になっている。観る方がこの作品を天に向かって見上げる時にも、その人の心の中にある“願い”や“祈り”のようなものが映し出されることで、この世界にむけての愛や平和の祈りが込められた炎になっていけばよいと感じている。そういう意味で、作品はみなさんに見ていただき、それぞれの想いを感じていただくことで本当の完成を迎えると思う。また、この状況下でなかなか人が上を見上げることは少ない。そんな中で上を向くことは特別な意味を持つと思うので、ぜひこの場所を訪れ、立ち止まって上を見上げる時間を持ってもらいたい。」

「東京大壁画」は2021年7月17日（土）～2021年9月5日（日）の50日間、展示予定です。時間帯や天候、観覧場所によって表情を変える、巨大壁画アートをぜひ様々な形でお楽しみください。

■実施概要

イベント名：東京大壁画

実施期間：2021年7月17日（土）～2021年9月5日（日）

実施場所：丸ビル（東京都千代田区丸の内2丁目4-1）、新丸ビル（東京都千代田区丸の内1丁目5-1）

アクセス：JR東京駅丸の内南口より徒歩1分、東京メトロ丸ノ内線東京駅より直結

公式WEB：<http://www.tokyodaihekiga.jp>

主催：東京都

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京



企画運営：株式会社ドリル

後援：三菱地所株式会社、三菱地所プロパティマネジメント株式会社（会場協力）

東日本旅客鉄道株式会社（発表会会場協力）

協力：株式会社アタマトテ、株式会社アマナ、株式会社アンテナ、株式会社Odds Design

<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社ドリル PR 担当 村木みちる (090-9132-4499)

MAIL：superwall@drill-inc.jp

【参考資料】

■アーティストプロフィール



横尾忠則氏

1936年兵庫県生まれ。美術家。72年にニューヨーク近代美術館で個展。その後もパリ、ヴェネツィア、サンパウロ、など各国のビエンナーレに出品し、パリのカルティエ財団現代美術館など各国の美術館で個展を開催。15年高松宮殿下記念世界文化賞、令和2年度東京都名誉都民顕彰。7月17日より東京都現代美術館での大規模な個展が開催される。



横尾美美氏

画家。1994年「Tadanori & MimiYOKOO」展で展覧会デビュー。1995年個展開催から、東京を中心に、全国各地で開催。2000年 PLEATS PLEASE ISSEY MIYAKE MILLENNIUM、Spring Summer2000を担当。最近では me ISSEY MIYAKE “MIMI YOKOO”の第一弾(2017年)から第三弾(2020年)までコラボレーションを展開。

■企画コンセプト

二つの巨大なガラス・ウォールに作品を展開するにあたり、「相互関係にあり、二つの呼応し合えるような概念を」を前提にテーマを検討しました。横尾忠則氏、横尾美美氏を交えてミーティングを進めるうち、「火と水」、しかも卑近な状況にとどまらない、宇宙的な元素概念として捉えることのできる、“火(ignis)”と、“水(aqua)”に絞り込まれました。火は水によって消火されるが、水もまた火によって気化するという相互関係にあります。また、火は揺れ続け、螺旋状に上昇する一方で、水は水平にとどまり、垂直に落下するという、運動形態も極めて異種の状態を示します。こうした二つの存在と運動は、宇宙はもちろん、人類、私たち一人一人が内包する運動であり、エネルギーでもあるという思想に立ち、人類から、宇宙までに通底する「コスモパワー COSMO POWER」=「生命の循環運動」と捉えました。

■作品の表現形式について

表現形式においても、「相互関係にあり、二つの呼応し合えるような概念」をテーマに取り入れられました。単にそれぞれが火や水を描くのではなく、モンタージュ、あるいはコラージュという手法を用い、作品の部分部分が、単純な火や水ではないものによって構成されています。これによって、上下左右様々な場所から、時に移動しながら鑑賞することで、場所や視点、時には時刻や天候によっても異なる発見が得られる作品が完成しました。

■展示・制作方法

丸ビル・新丸ビルの壁面に作品を展示するにあたって、お二人が手掛けた巨大な絵柄を両ビルの窓ガラスの大きさにあわせて、1枚あたり約0.7㎡から約3.9㎡のシートに分割しました。分割したシートを2021年5月6日から2ヶ月以上かけて、1枚ずつガラス壁面に貼り付ける形で壁画が制作されました。最終的に、丸ビルが798枚、新丸ビルが1,480枚、合計2,278枚のシートが用いられています。

株式会社ドリルについて

クライアントの課題を最も劇的な方法で解決するクリエイティブ&コミュニケーションエージェンシー。最も劇的な方法とは、世の中に新しい価値を生み出す革新的なやり方そのものを意味しています。戦略、アド、プロモーション、コンテンツ、プロダクト、デジタル、イベント、PRとあらゆるソリューションを提供します。

社名：株式会社ドリル (Drill Inc.)

設立：2004年12月 代表取締役 CEO：江成 修

所在地：〒150-0042 東京都渋谷区宇田川町19-5

HP：<http://www.drill-inc.jp/>

Drill

「Tokyo Tokyo FESTIVAL」とは

オリンピック・パラリンピックが開催される東京を文化の面から盛り上げるため、多彩な文化プログラムを展開し、芸術文化都市東京の魅力伝える取組です。

「Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13」とは

斬新で独創的な企画や、より多くの人々が参加できる企画を幅広く募り、Tokyo Tokyo FESTIVALの中核を彩る事業として、東京都及び公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が実施するものです。国内外から応募のあった2,436件から選定した13の企画を、「Tokyo Tokyo FESTIVALスペシャル13」と総称し、展開しています。

公式WEBサイト：<https://ttf-koubo.jp/>